

特定非営利活動法人シクロツーリズムしまなみ

2023年度 事業報告書

1. 自転車をつなぐ山・里・まち・海プロジェクト～環境教育によるしまなみのブランド力向上事業～ (2022年度地球環境基金助成金/3か年事業)

しまなみ自転車キャンプを通して、拠点①ゲストハウス“なみトみなと”におけるサイクルツーリズムのオペレーション体制構築、拠点②“シクロ農園”における環境学習の機能整備を行なった。山から海へつながる地形、それを基盤とした生物多様性や土地利用のモニタリングをすすめ、旅人と住民双方へのガイダンス機能を充実させた。

(1) 二次的自然の保全を基盤にした誘客プログラムの構築

《アウトカム》自然と人のつながりを求める旅行者の増加と地域住民の担い手育成

サイクリングとキャンプを組み合わせ、自然環境に寄り添いながらの地域回遊と滞在を促す事業。春、夏、秋のシーズンごとのモニタリングを行い、モニターとの対話、アンケートによる意見収集から、地域のファンづくりにつなぐためのアイデアを抽出した。

《アウトプット》

- キャンプ道具配備 →2024年度より、レンタル及び募集型ツアー開始。
キャンプ道具貸出消耗資材、モニターツアー時消耗資材の購入により、充実を図った。
- 「しまなみ自転車キャンプ」マップ制作 →1000枚製作。2024年度に配布し、しくみの周知へ。
しまなみ海道を自転車でキャンプする際の情報を掲載したマップを製作した。
- WEBでの広報（ホームページ構築《英語化》 →なみトみなと機能整備。
自転車でキャンプするユーザーへの情報発信を英語・日本語で整えた。

(2) 山・里・まち・海つながり拠点の創出

《アウトカム》学び場の構築により、地域住民と旅行者の交流創出

調査及び研究を旅人・住民双方の参画型で開始し、文化的サービス提供拠点化の活動を開始した。「シクロ農園」を学び場として再構築し、地域住民と旅行者の交流が生まれた。新たな導入作物、周辺の誘導路や園地の整備・維持への意欲向上にもつながった。

《アウトプット》

- 調査とその報告会の実施 →2024年度も調査を継続。
年間を通してエリア内の調査を実施。専門家を招聘しての説明会には27名が参加。
- 世代間交流拠点の整備完了 →2024年度も「シクロ農園」への来訪促進のしかけづくり。
地元住民の定期的な来訪が見られるようになった。園児、児童の行事利用も。
- ガイダンスの充実。 →2024度は「シクロ農園」での展示啓発。
セルフガイダンスツール「水を巡るサイクリング（葉書）」1000冊発行

(3) 地域に確立された自転車新文化推進体制へのコミット

《アウトカム》地域資源保全につながる自転車旅行推進に向けた地域連携の体制強化

なみトみなと、シクロ農園を拠点に、多様なステークホルダーが関わりあいながら、地域の二次的自然等の活用を通して、その保全を具現化する。全体構想（「自転車旅行推進宣言(仮称)」）を示すことでガイドの育成、ガイダンスツールの作成。自転車の聖地としてのブランド力向上につなぐ。

《アウトプット》

- セルフガイダンスツールの製作 →2024年度は旅行者向けツールの製作
・多様な関係者の学びのツール「水を巡るサイクリング」製作。

2. 「人と自然がつくるしまなみ海道」展示会開催事業～高縄山から海峡へつながる水資源と暮らし～

(令和5年度愛媛県「三浦保」愛基金環境保全・自然保護分野)

「しまなみ海道」とつながる「とびしま海道」、「はまかぜ海道」など、多様なサイクリングルートの結節ポイントである拠点施設「なみかた海の交流センター」において、2回の展示会を開催した。また、展示期間中にはガイダンス機能強化に向けて、自然観察会や創作ワークショップ等の学びの場を設けた。地域の貴重な自然を取り巻く、地理や地質、歴史や文化等への関心を高めると共に、その魅力を内外へ伝えられる知識を持った地元住民を増やし、自転車先進都市としての交流の素地づくりを進めることにつながった。

(1) 第1回：里山とそこに生きる生き物 ～里山の景観と人々の暮らし～

展示会 令和5年7月26日(水)～8月25日(水)

高縄半島の北端・波方町の果樹園がある一つの集落を中心に、地理的特性、植生や農業等の沿革を再度、確認した。集落とそれと取り巻く農地、ため池等の里山構成要素を抽出し、パネル展示した。来場者からは、「前のあぜ道の見方が変わった」、「水の恵みを感じた」との声が聞かれた。代々続く果樹農家等の耕作により形成された里山、そこにある生活を捉えなおす機会となった。

特別企画（里山自然観察会・創作ワークショップ）

令和5年8月2日(水)10:00～11:30 inシクロ農園

トンボが飛び交う果樹園等が広がる里山をフィールドに自然観察会を開催した。トンボが住める環境とは、周囲の樹林の整備やため池等の水環境が大切であることを学んだ。また、トンボは肉食であることから、トンボがいることはたくさんの昆虫が生息しており、生態系が豊かであることを確認した。子ども達が自分で生き物を捕らえる経験を通して、生き物が住める自然を守っていくという里山に暮らす大人の役割を考える機会となった。



(2) 第2回：森から生まれる軟水 ～水の循環から見る人々の営み～

展示会 令和5年11月2日(木)～2024年12月2日(土)

高縄山系から瀬戸内海までのエリアについて、水の流れがイメージできる資料を展示した。産業都市である今治について、自然環境に視点をあて、かつ多様な世代に分かりやすく伝えるために、絵本タッチでのパネル展示とした。



特別企画（創作ワークショップ）

令和5年11月5日(日)15:00～16:30 inシクロ農園

爽やかな秋を迎えた「シクロ農園」内での創作ワークショップを開催した。園内で自生する草花、ハーブ等を採取し、涵養力ある土地で育つ秋の植物を観察した。草花の香りを楽しむ方法として精油の抽出があること、実際に花びら、樹皮や果皮から抽出した精油の活用について学んだ後、オリジナル商品づくりを行った。植物由来の素材を使うこと、季節の移ろいを感じることで、簡単なことから自然に目を向けることで環境負荷を低くすることにつながることを共有した。



特別企画（創作ワークショップ）

令和5年11月18日(土)14:30～15:00 inなみかた海の交流センター

「今治タオル」の吸水性&風合いを楽しみながらの創作ワークショップを行った。里山の草花をそのまま使った染色体験では織物産業の歩みを軸に、水・土壌などの自然の利用への関心を高めてもらう機会となった。里山の草花の活用しながらその草花の自生の様子を紹介する時間を持つことで、地域の自然環境への関心を高めることができた。今治タオルと里山を一緒に体感できるプログラムとして、大変好評であった。



3. サイクリスト向け情報発信コンテンツ運営管理委託業務

フェイスブックとインスタグラム「しまなみサイクリングパラダイス」、ホームページ「しまなみ自転車旅の宿」の運営を通じて、瀬戸内しまなみ海道をサイクリストの聖地として広く国内外にアピールした。

①フェイスブック・インスタグラム「しまなみサイクリングパラダイス」の運営

「しまなみ海道」サイクリングの基本的情報及び取材に基づくしまなみエリアの新規情報を配信した。また走行マナーの向上や安心・安全な自転車運転につながる啓発情報を織り交ぜ、安全・快適に走行できるエリアアピールを行った。

(1) カバー写真の更新

毎月1回、季節感のあるしまなみ海道エリアの写真を更新した。

「しまなみ海道」や「ゆめしま海道」の橋梁美の印象が残るよう、時間ごとに表情を変える「橋」の風景を厳選した。

7月/いいね:35件 ▶



(2) 取材及び記事の投稿

3日に1回程度の頻度で投稿した。分かりやすい平易な言葉、意図がすばやく伝わるよう画像等の使用に留意した。また、新規でインスタグラムアカウントを開設し、視覚的な訴求効果の高い画像について、毎月3回投稿した。月に1回、マナー啓発のための記事を作成。しまなみ海道を安全、安心して走行するサイクリストの増加に向けての情報発信に努めた。

【FB】最もインプレッションが高かった記事

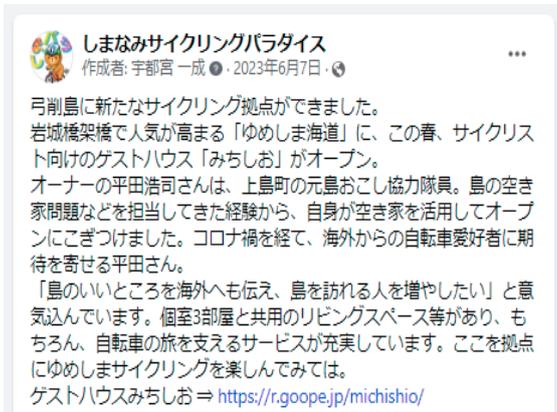
(2023年6月7日投稿)

リーチ数：1565 エンゲージメント：361

【インスタ】最もインプレッションが高かった記事

(2023年10月28日投稿)

リーチ数：344 エンゲージメント：52



フォロワー数はフェイスブック 3,380名/インスタグラム 396名(2024年2月29日現在)となった。前年比で52名増加、性別の割合に変化はない。中部、関東圏のフォロワーが少ないことから、生活県内の情報収集を目的に閲覧していることが推測される。また、インスタグラムでは、若年層、女性のフォロワー数の割合が多いことから、今後、ターゲットに即した情報発信がフォロワー数のアップに効果的と考えられる。

②ホームページ「しまなみ自転車旅の宿」の運営

ホームページ「しまなみ自転車旅の宿」を管理した。自転車の安全な保管やメンテナンススペースの有無、外国語対応の可否など、サイクリストフレンドリーな宿泊施設情報を提供し、瀬戸内しまなみ海道へのサイクリストの誘客を図った。

(1) ページの管理

専門的な知識がなくても簡易なマニュアルで操作できる汎用的なコンテンツ管理システム(CMS)を活用し、日本語サイト、英語サイトを管理した。

(2) 掲載情報の更新

登録宿泊施設からの掲載情報の修正、新たな登録希望者への対応を行った。

4. しまなみ海道サイクリング体験等実施業務

今治市内の小中学生を対象に、しまなみ海道サイクリング体験及び交通安全教室を実施した。ふるさと今治の魅力を体感し、すばらしさに気づく体験となった。また、サイクルスポーツ振興の振興や自転車事故のない安心なまちづくりにつなぐ機会となった。

① 吉海・宮窪小学校サイクリング体験

日時：令和4年10月25日(水)9:00~11:00

参加：今治市立吉海・宮窪小学校5年生 児童30名(教員7名)
今治市/観光課7名, 学校教育課1名、総務管財課(バス)1名
今治警察署1名・ガイド3名

コース：多々羅しまなみ公園から多々羅大橋レモンのベンチ(往復約4km)

② 菊間・亀岡小学校小学校サイクリング体験

日時：令和4年10月25日(水)10:00~12:00

参加：今治市立菊間・亀岡小学校5年生 児童28名(教員6名)
今治市/観光課7名, 学校教育課1名、総務管財課(バス)1名
今治警察署1名・ガイド3名

コース：多々羅しまなみ公園から多々羅大橋レモンのベンチ(往復約4km)

③ 菊間中学校サイクリング体験

日時：令和6年3月18日(月)10:00~15:00

参加：今治市立菊間中学校2年生 生徒36名(教員4名)
今治市/観光課5名, 総務管財課(バス)1名
今治警察署1名・ガイド3名

コース：サンライズ糸山からよしょうみバラ公園(往復約22km)

「岡村小学校サイクリング体験」「近見中学校サイクリング体験」は悪天候により中止とした。

5. ライフステージに応じた自転車利用の拡大と安全安心ライドの普及

自転車新文化の定着を目指すしまなみから、世代を越えて自転車に親しむ機会の創出、走行環境の整備や交通マナーの啓発につながる取組み等を進めた。

① 「みきゃんサイクルスクール 自転車ヒロバ」開催事業

未就学児を対象に「ランニングバイク」使用による「自転車ヒロバ」活動を実施した。活動により、自転車に乗るための基本となる能力、他者とぶつからないようにする中で育む思いやりの気持ち等を実践的に養うと共に、自転車を安全に利用するためのルールやマナーを啓発することができた。また地元のコミュニティ組織、企業等と連携し、保護者等が休憩できる空間づくりを行うことで三世代が交流しながら自転車の魅力を体感できる場づくりとなった。

《1回目》

日時：令和5年7月26日(水)15:30~19:30

会場：なみかた海の交流センター

連携：玉生八幡神社の輪ごし(地元コミュニティ組織)

参加：未就学児約60名、来場者約110名

《2回目》

日時：令和5年10月8日(日)9:00~14:00

会場：今治港・せとうちみなとマルシェ会場

連携：せとうちみなとマルシェ実行委員会

参加：未就学児約110名、来場者約180名

《3回目》

日時：令和5年10月22日(日)10:30~15:30

会場：今治商店街

連携：今治市・こどもが真ん中フェスタ

参加：未就学児約90名、来場者約140名



《4回目》

日時：令和5年11月11日(日) 10:30～15:30

会場：新来島どっく感謝祭会場

連携：造船の未来を拓く 新来島感謝祭！

参加：未就学児約240名、来場者約420名



② 第12回しまなみランニングバイク選手権

「しまなみランニングバイク選手権」を開催した。三世代が交流しながら自転車に親しむ大会となった。自転車の往来が増えるまちにおいて規則やマナーの啓発、自動車や歩行者との道路シェアの意識醸成等につなぐこと事業として、地域一丸となった取組ができた。

日時：2023年12月2日(土) 9:30～15:30

会場：波方港・なみかた海の交流センター

参加者数：選手155名・来場者約560名



③ 「しまなみオープンパーク リニューアルオープンセレモニー 自転車ヒロバ」開催事業

しまなみオープンパークのリニューアルセレモニーに合わせ、「海」をイメージした遊び場に訪れた就学児を対象に「ランニングバイク」使用による「自転車ヒロバ」活動を実施した。

日時：令和6年3月2日(土) 11:00～16:00

会場：イオンモール今治新都市 駐車場

連携：今治市

参加：未就学児約60名、来場者約110名



6. なみかた海の交流センター管理運営事業（今治市委託事業/3か年事業）

地域住民と来街者の交流の拠点として、しまなみ海道を訪れる自転車愛好者等の立ち寄り、海事資料の展示による地場産業の振興等に取り組んだ。市民の創作活動、芸術作品等の発表の場「市民ギャラリー」の充実に努め、文化活動を通じた施設の認知度向上に努めた。

交流スペースではサイクリングでの地域回遊型ツアー、地産食材を活用したカフェメニューの提供等を継続した。ヘルスクエアを採り入れたライフスタイルの変容を支援するプログラム、自転車でキャンプする地域回遊を支援する体制整備等、独自性をいかした拠点運営を目指した。引き続き、旅行者、地域住民双方が気軽に立ち寄り、懇親・交流できる拠点づくりを進めたい。

7. 宿泊業「しまなみゲストハウス シクロの家」「なみトみなど」

しまなみゲストハウス「シクロの家」は開業から10年目を迎えた。しまなみ海道サイクリングの起終点、中継点として国内外から多くの旅行者に滞在・宿泊いただいた。四国遍路の旅行者の宿泊も多く、今治市内の6ヶ寺を巡る拠点宿としての役割を感じている。特にヨーロッパからの旅行者には日本の原風景をじっくりと体感できる旅体験として、近年、四国遍路の人気が高まっている。「Cyclo cafe & book Hostel なみトみなど」は名称を「なみトみなど」に改称し、今年度は週末を中心に営業を再開した。

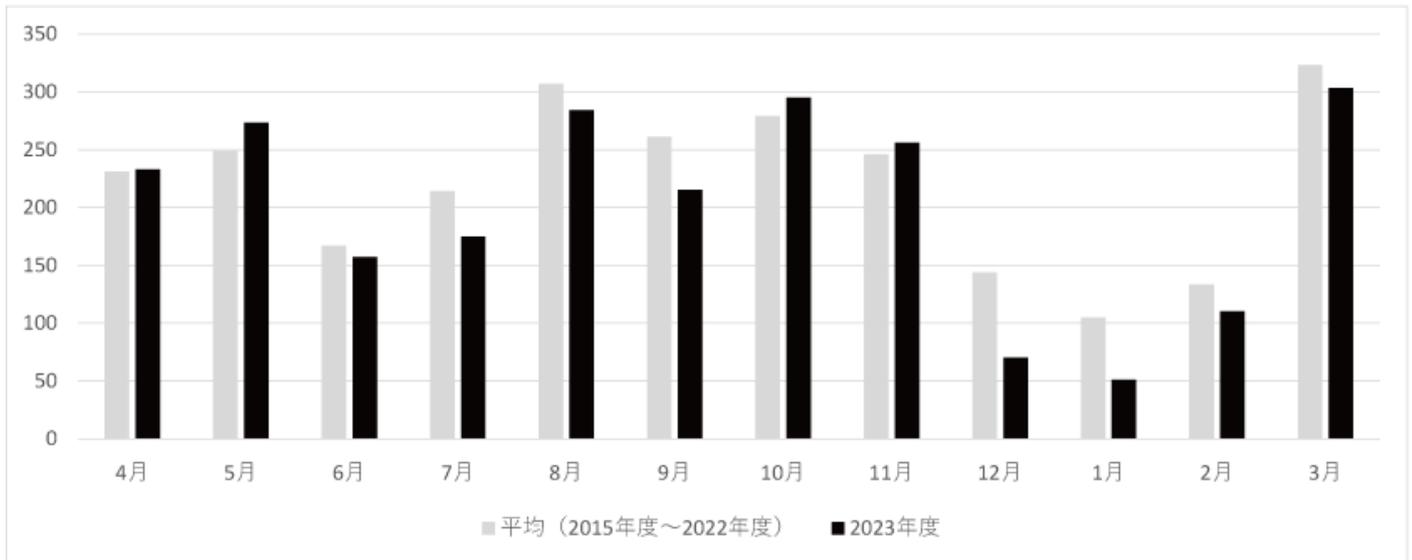


「しまなみ海道」の認知度向上に伴い、1日で走り切る走行スタイルではなく、宿泊型のサイクリング来訪が増加している。2日以上かけてスローサイクリングを楽しむスタイルを提案してきた当会の取組みが定着してきた手ごたえがあった。実際に初めて長距離のサイクリングをしてきた宿泊者の声を聴くと、その満足度は10年前より遥かに良いものになっている実感があった。

① 宿泊利用実績・動向

シクロの家（最大収容14名）の年間の宿泊者数は2,422人（泊）（前年度1,610人/前年度比815人（泊）増）。となった。また、サイクルオアシス総合拠点として、カフェ利用やグッズ購入を含む宿泊者以外の立寄り利用も促し、293名の来訪があった（前年比100名程度増）。

グラフ：月ごとの宿泊者数推移（平均値と本年度）



・2015～2022年度までの平均の年間宿泊者数:2,659人（泊）。宿泊者数はこれまでの平均的な宿泊者数まで回復。

表：月ごとの宿泊者数（平均値と本年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平均	231	249	167	214	307	261	279	246	144	105	133	323	2659
2023年度	233	273	157	175	284	215	295	256	70	51	110	303	2422

・サイクリングや四国遍路目的の旅行者の季節的な変動の傾向は変わらない。

長期休業のある8月や3月にピークがあり、梅雨時期の6月や、冬季の1月、2月に宿泊者数が少ない。

・サイクリングに適した気候の月（5月、10月、11月）は平均よりも多くの宿泊がある。

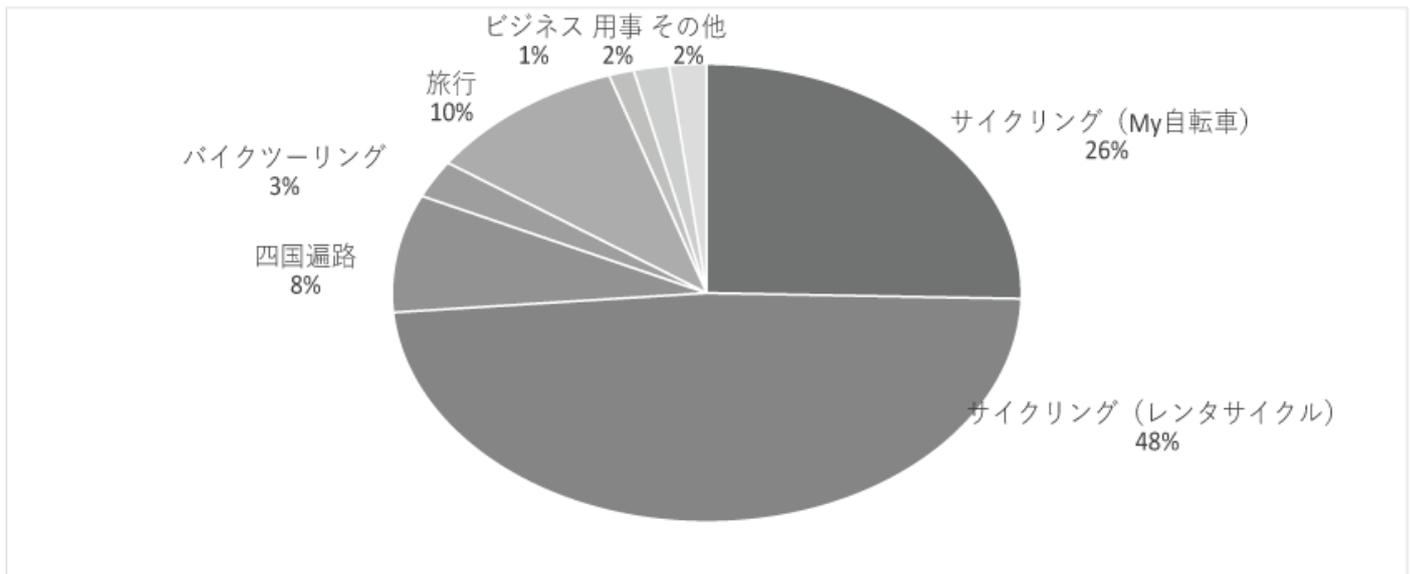
オフシーズン（12月、1月）は特に宿泊者数が少なかった。

しまなみ海道サイクリングの体験談やレコメンドなど、インターネットで多様な情報源があり、よりよい季節を選択し、来訪者の集中につながっている傾向を感じた。今後もオフシーズンとオンシーズンは顕著になることが想定される。

② 宿泊者の属性と傾向

「シクロの家」で行っているチェックイン時の簡易アンケートより、以下の内容が読み取れる。

グラフ：シクロの家宿泊者の目的（2023 年度）



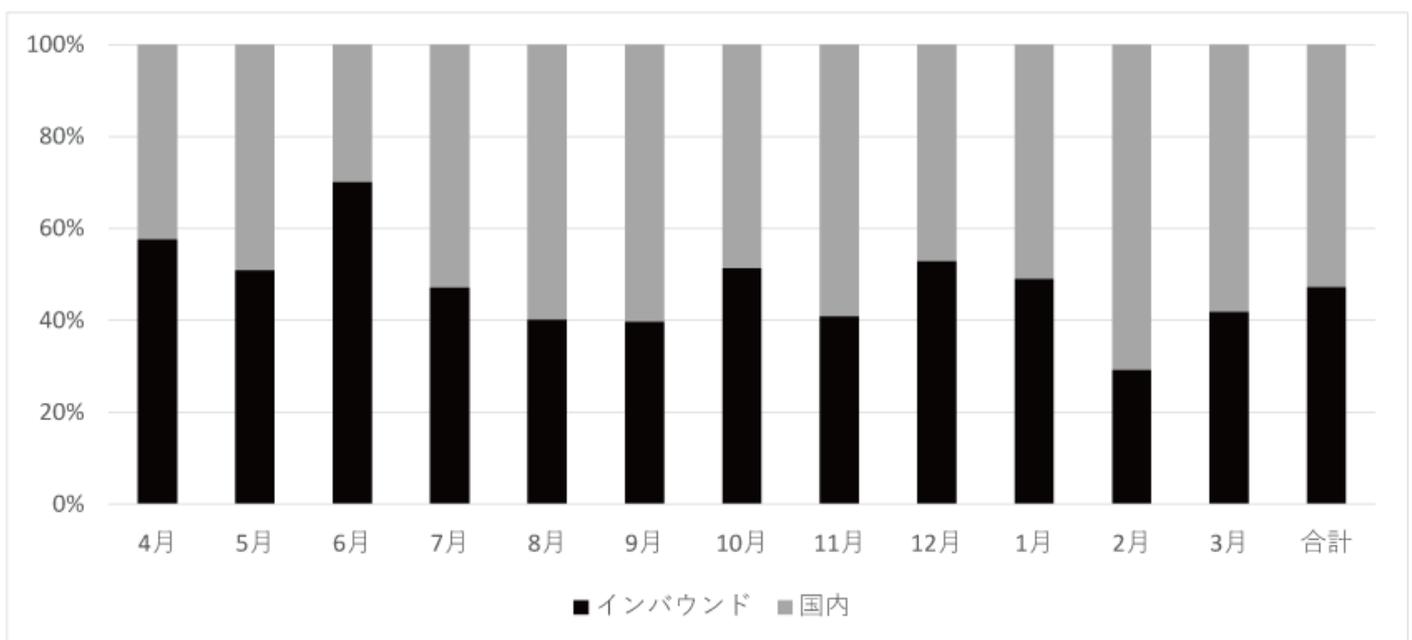
- ・ レンタサイクル旅行者の割合が増加（昨年度までは、My 自転車：レンタサイクル＝1：1）。
レンタサイクルの旅行者（初心者、ビギナー）に必要な情報提供の充実の重要性を再確認。
- ・ 今治市内のホテルや旅館による自転車旅行者対応は向上。自転車を安全に保管できる仕組みの充実を踏まえ、My 自転車の旅行者のニーズ、多様な選択肢で来訪できる地域の体制へつなぎたい。

表：宿泊者の男女比率（2023 年度）

性別	比率
男性	62%
女性	38%

- ・ 女性ドミトリーの数が限定的なこともあり、男女比はこれまでとほぼ変わらず、6：4の割合。

グラフ：月ごとのインバウンド、国内旅行者の割合（2023 年度）



表：月ごとのインバウンドと国内旅行者の宿泊者数（2023 年度）

宿泊者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
インバウンド	136	139	108	82	110	85	151	103	37	25	29	129	1134
国内	100	134	46	92	164	129	143	149	33	26	70	179	1265

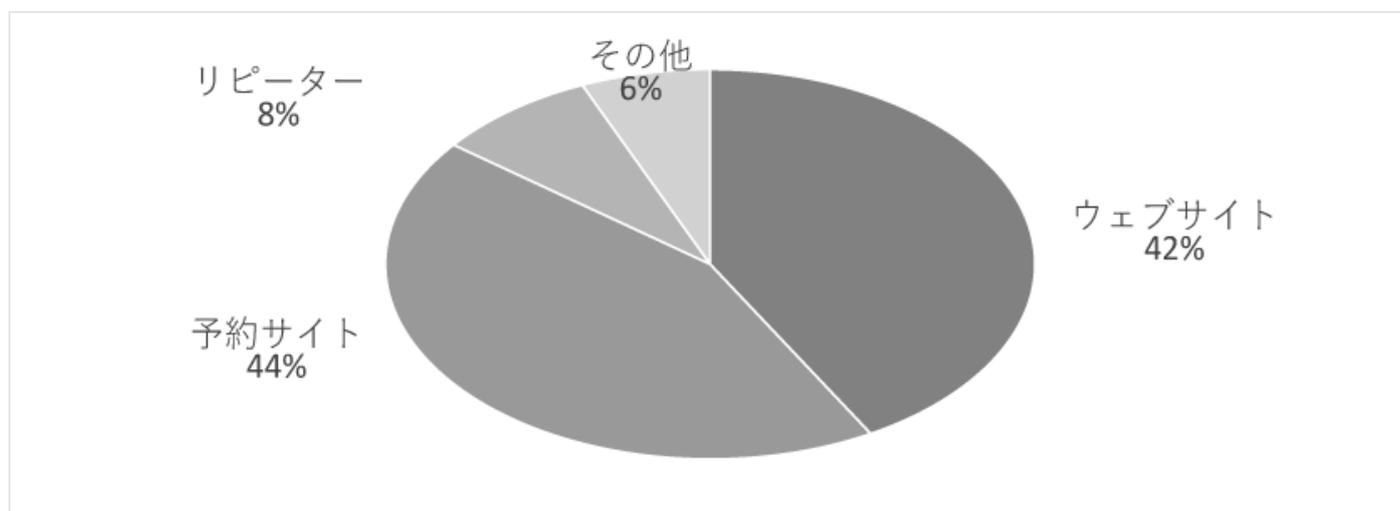
- ・2022 年 11 月以降に回復しはじめたインバウンド旅行者。2023 年度は年間宿泊者のおよそ半数に及んだ。
- ・国内旅行者は長期休暇期、温暖な期間に集中。インバウンドは欧州の旅行者のバケーションの時に影響。
- ・地域構成はこれまでとあまり変わらず、本年度も欧米の宿泊者が多かった。

表：国内とインバウンドの地域別宿泊者数（2023 年度）

県外客の構成	
地域	人数
関東	489
近畿	297
中国	121
九州	90
四国三県	35
その他	210

インバウンド宿泊者の構成	
地域	人数
欧州	583
北米	224
中南米	18
中東	12
アジア	208
アフリカ	2
オセアニア	87

グラフ：シクロの家を知ったきっかけ



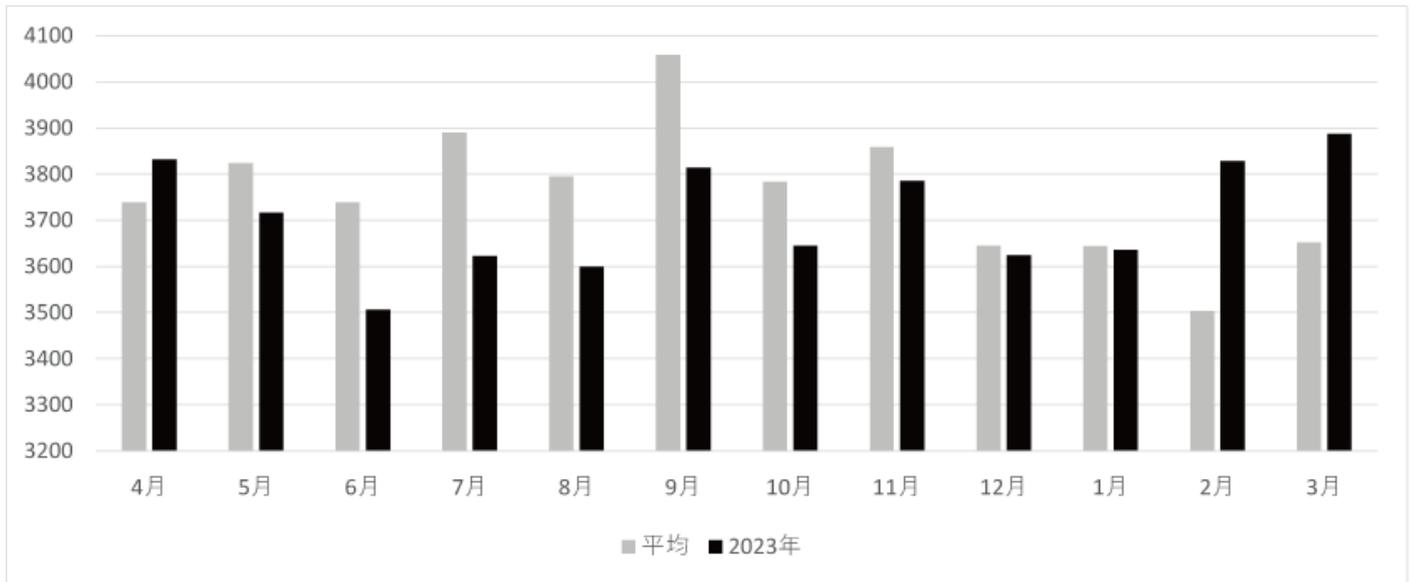
- ・2023 年度はこれまでで初めて、公式ウェブサイト(ネット検索)と予約サイト(Booking.com)の割合が逆転。スマートフォンのアプリケーションで検索と比較をして、クチコミも参考にしてから予約するという、旅行者の宿探しに置くスタイルの変化が見られた。

「シクロの家」では宿泊者数が回復したとはいえ、2018 年度や 2019 年度の 65%程度の宿泊者数に留まっている。次年度も、旅行者のニーズや志向性の変化に可能な限り対応しつつ、しまなみ海道サイクリングや四国遍路のサポートや居心地の良い空間づくりを進めたい。「なみとみなど」では施設の特徴を活かして、長期の団体宿泊の受入れを含め、「シクロの家」との差別化を図った集客体制を構築したい。

8. 物品販売業

アパレル、グッズ等の土産は、地域内の販売施設（道の駅等）の集客回復が見られ、上向きとなった。

《参考》グラフ：「ゲストハウス シクロの家」における「宿泊・物販」対面販売の売上（単位：円）



宿泊料金やカフェ利用、グッズ売り上げなども含む、売上単価の月ごとの変化。

・ 宿泊料金：1月以降は料金改定。レジャーシーズンはグッズの売上が伸びる。

《ツールやウェブサイトの情報更新》

「シクロの家」や「なみとみなと」の公式ウェブサイトの掲載情報の他、宿泊者向けの情報ツール、散策マップや船やバスの時刻表、飲食店の店舗情報などのファイルなどの情報更新を強化した。X(旧 Twitter)、Instagram、Facebook の公式 SNS での発信も定期的に行った。今期はレンタサイクルを含むしまなみ海道の様々なサービスの料金改定やシステムの変更、バスや船の時刻表改定などが相次ぎ、情報収集作業と英語サイトも含む掲載内容の更新作業の頻度が高まった。今治市内の飲食店などでは閉業があったり、営業時間や定休日などが変則的になったりする状況が見られた。正確で的確な情報発信を目指し、更新作業は丁寧に行った。特筆すべき点としては、台湾～松山の航路が復活したことを受け、台湾からのサイクリング旅行者向けの情報拡充をシクロの家公式ウェブサイト上で図った。ChatGPT を活用した翻訳で、英語での「しまなみ海道サイクリング Q&A」ページを中国語(繁体字)で多言語化する試みを行った。これにより台湾からのシクロの家ウェブサイトへのアクセス数も増加した。

11. 地域限定旅行業

①募集型旅行

旅行者のニーズに合わせて、着地型旅行商品を造成し、提供した。地域資源の活用、住民との交流を進めた。

■第10回シクロ女子旅(秋) *コミュニティライドとして実施

2023年11月4日(土)・5日(日)/1泊2日

■第13回タンデム自転車祭り

2024年3月23日(土)・24日(日)/1泊2日

② 受注型旅行・ガイド派遣

個人や団体、旅行会社等からの依頼に基づき、オーダメイド型旅行企画及びガイド派遣をした。

《個人旅行》

年月	主な目的地・人数	概要
2023年4月	しまなみ海道サイクリング（来島海峡大橋）5名	訪日外国人観光客を扱う旅行会社
	しまなみ海道サイクリング（来島海峡大橋）7名	
5月	しまなみ海道サイクリング（来島海峡大橋・大島周遊）3名	訪日外国人観光客を扱う旅行会社
	しまなみ海道サイクリング（来島海峡大橋・亀老山）3名	訪日外国人観光客を扱う旅行会社
	しまなみ海道サイクリング（来島海峡大橋）10名	訪日外国人観光客を扱う旅行会社
12月	しまなみ海道サイクリング（来島海峡大橋）10名	訪日外国人観光客を扱う旅行会社

《団体旅行》

	主な目的地・人数	概要
2023年10月	しまなみ海道サイクリング（来島海峡大橋）25名	訪日外国人の募集型ツアー
11月	しまなみ海道サイクリング（しまなみ海道ハーフ）12名	日本人旅行者の募集型ツアー
2024年3月	しまなみ広域サイクルツーリズム圏域モニターツアー 10名	在日外国人を対象にしたモニターツアー

《修学旅行》

2023年5月	多々羅大橋を渡るサイクリング体験へのガイド派遣 ・兵庫県/中学校 110名 ・大阪府/小学生 100名 ・奈良県/中学校 50名 来島海峡大橋を渡るサイクリング体験へのガイド派遣 ・愛知県/高等学校 80名・100名
6月	来島海峡大橋を渡るサイクリング体験へのガイド派遣 ・大阪府/中学生 約25名
10月	来島海峡大橋を渡るサイクリング体験へのガイド派遣 ・東京都/高等学校 80名 ・愛知県/高等学校 80名・80名・40名
11月	来島海峡大橋を渡るサイクリング体験へのガイド派遣 ・愛知県/高等学校 延べ約40名
12月	多々羅しまなみ公園からのしまなみ海道ハーフライド体験へのガイド派遣 ・兵庫県/高等学校 延べ約40名

12. 自転車まちづくり

自転車による地域振興、自転車を活用した健康推進や環境配慮型の取組み等を進める各種機関からの依頼に基づき、講師を派遣したり、現場視察・ガイド派遣による現地ツアー等を行なったりした。

① 講師派遣

2023年 6月21日(水)	今治市内の中学校の福祉教育の一環で、島の観光資源等を自転車を通して体感的に学ぶ授業へのガイド派遣。自転車で巡りながら、サイクルツーリズム推進による島の活性化を共有。
2023年 10月4日(水)	今治市をフィールドに、地域づくりの担い手との交流を通して、地域の魅力や課題を探究することを目的とした地域実習の受入れ。サイクリング体験を通して、地域資源の魅力と活用を共有。
2023年 11月2日(木)	令和5年度愛媛大学観光サービス人材リカレントプログラムにおいて、「しまなみ観光とレンタサイクルの魅力」をテーマに講義。

2023年 11月2日(木)	国際観光ビジネスコースの講義の一コマとして、自転車による観光について紹介。今治市の地域資源をいかした取組みから、観光業に携わる人材としての視点を講義。
2024年 2月19日(月)	日本風景街道大学・葉の花田原キャンパスにおいて、道を楽しむサイクルツーリズムの魅力と可能性を事例報告。官民の役割分担、住民参画及び広域連携の大切さを共有した。
2024年 2月22日(木)	自転車の休憩所運営者を対象とした「サイクルオアシス研修会」において、基礎的な知識やおもてなしのポイントを助言。オアシス運営者間の交流や連携について意見交換した。
2024年 3月19日(火)	大鳴門橋自転車道整備を見据え、「しまなみ海道」の歩みについて紹介。自転車利用者を受入れる側の地域としての心構えや、提供するサービスなど、ソフト面の充実に向けたヒントを官民ともに考える機会とした。

② 視察受入

2023年 8月17日(木)	今治市サイクルシティ推進課	ソフトバンク社が行う地方創生型インターンシップのヒアリング受入。しまなみ海道サイクリストに向けた今治市内誘導施策検討チームへの助言。
2023年 12月27日(木)	南あわじ市総務企画部財務課	広域連携によるサイクルツーリズム推進による地域活性化を目指すにあたり、市議会の視察団の受入。官民一体で進める受入環境整備と役割分担を共有した。

③ 審議会・委員会・意見交換会への参加

しまなみの自転車振興や関係機関との連絡調整等に関する会議等に参加した。

2023年6/30(金) 7/21(金)12/13(水)	今治ブランド戦略会議/今治市営業戦略課	今治市ブランド iimabari の価値を高めるため、多様な主体による目的と計画、実行への参画。今期はイノベーション部会員として、今治ブランド戦略 (i.i.imabari!キャンペーンのロードマップ) 作成令和6年度の事業計画の方向性を議論した。
2023年8/22(火) 11/1(水)	中心市街地創生デザイン会議/今治市魅力都市創生課	今治市中心市街地の再開発にあたり、人が集い、安全・安心な生活を送ることができるような空間づくりを検討する会議に出席。
2023年10/3(火) 2024年3/4(月)	しまなみ地域サイクリストマナー向上推進協議会/愛媛県東予地方局今治支局総務県民室	しまなみ地域を訪れるサイクリストの交通ルールの順守やマナーアップへの意識向上対策に関して、取組の基本事項を検討する協議会への参加。
2023年 12月25日(月)	今治市サイクルシティ推進協議会/今治市サイクルシティ推進課	官民一体となって自転車の活用推進に努め、誰もが安全に安心して自転車を利用できる環境を整えるとともに、サイクルツーリズムによる地域活性化を図る取組みを検討。

11. 会議に関する事項について

(1) 総会

①第14回通常総会

日時：2023年4月29日（土）

議題：○2022年度事業報告・収支決算報告の件
○2023年度事業計画・収支予算の報告の件

(2) 理事会

第1回 日時：2023年4月29日（土）

議題：○2023年度事業計画・活動予算の件
○有給役員の内
○スタッフ給与の内
○総会に付すべき事項の内

第2回 日時：2023年5月18日（月）

議題：○簡易宿所運営体制の内
○アルバイト雇用の内
○2023年度事業の進捗の内

第3回 日時：2023年8月13日（日）

議題：○募集型ツアー、ガイド派遣の内
○アルバイトの業務内容の内
○2023年度事業の進捗確認の内

第4回 日時：2024年1月6日（土）

議題：○なみとみななどの業務内容の内
○2024年度スタッフ体制の内

第5回 日時：2022年9月12日（月）

議題：○看板商品2次募集採択の内
○なみとみななどの再開の内
○2022年度事業の進捗確認の内

第6回 日時：2022年10月20日（木）

議題：○看板商品スタッフ研修の内
○しまなみ海道サイクリング体験事業の内
○サイクルオアシス調査の内
○2022年度事業の進捗確認の内

第7回 日時：2022年12月21日（水）

議題：○地球環境基金助成事業の内
○2022年度事業の進捗確認の内

第8回 日時：2023年2月15日（水）

議題：○2023年度事業立案の内
○2023年度スタッフ体制の内